

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループホーム 和楽		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

町の中心の小高い丘の上に立地しており、閑静で交通の便もよく、憩いの場となるよう、季節の花や芝生が植えられ、東屋も作られ散歩には、格好の場所になっています。医療面ばかりではなく、新鮮な季節の食材を安心な水の利用などの面でも健康保持に配慮されています。広々とした明るい館内で、和やかに楽しく過ごしていただき、誰からも束縛されない自由な生活ができ、転倒防止、食事の嚥下、清潔、健康状態などいつも気遣っています。母体には病院があり緊急時の場合には安心してすぐに医療を受けることができます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

牛深の中心部に位置するホームは、四季折々の花々や樹木の植えられた中庭の東屋を囲むように建てられた書番館と式番館がある。入居者は敷地内の散歩や野菜作り・植木の手入れ・食事の準備や俳句を楽しむ等個々の生活歴や希望に応じた楽しみ事支援の充実に努めている。経験豊かなスタッフと「自分の祖父・祖母への感謝の思いをこのホームでも！」と語る若いスタッフの温かく希望溢れる思いはまさにホーム理念“和やかに楽しく”を感じ取れる。昨年度の外部評価を真摯に受けとめ、サブ理念を新しく設けたり、家族会の発足など早急な話し合い・改善が行われている。地元で歴史ある母体医療機関との連携は入居者・家族の安心に繋がっており、今後も地域の中で“和やかに楽しく”地域に根ざして行くことが感じ取れるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和やかに楽しく」は、いつでも確認のできる場所に掲げてあり新職員もすぐに覚えやすく理念の共有ができています。今回新たに、サブテーマを設け実践に繋げています。	「和やかに楽しく」を基本理念とし、今年度はサブ理念「自分らしく」「地域に根ざした」「信頼と尊厳」を新たに設け、月一回の理事長との話し合いや・ホーム内の掲示・日々の朝礼で共有し意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流もあって日々の挨拶をしてくださり利用者の方とも顔見知りになっており、1人で、出られている時などすぐに、教えていただいたりと協力してもらっています。	地域の中で暮らすことの大切さを職員間で常に話題とし、日頃から挨拶や地元商店の利用・行事への参加を大切にしている。散歩の途中に近隣者から野菜や季節の花をいただくことも多く、食材への利用や食卓など入居者の目につく所に花を飾り楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の「認知症家族の会」が1回/月開催されており職員が代表で1名参加し悩みや相談を受けています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議開催では現状報告や地域との交流・入居者の方のケアについて職員の研修や外部評価等を議題に上げ、数多くの意見交換がされ事業所の運営に反しています。	二か月に一度と定例化した会議では、毎回ホーム運営に繋がる有意義な意見交換が行われていることが議事録より窺える。今年度は家族会の発足や、ホームより地域交流を更に深めたいという相談に対して、老人福祉センターで開催される文化展への参加のアドバイスを受け入居者の作品(貼り絵)を出品したことで入居者の自信や家族の楽しみに繋がった。	今後もホームとしてできる地域貢献(認知症啓発活動)や入居者の持つ知識や特技・趣味の披露(講話・俳句)など会議の中で提案され実現に繋がっていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの勉強会など積極的に参加して質の向上に繋げています。	行政代表として毎回運営推進会議にも地域包括センター職員が参加しており、会議以外にもアドバイスや相談に応じてもらうなど良好な関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていませんが、無断で外へ出られる方への言葉かけも拘束にならないように努めています。	職員は法人やホーム内で施錠を含め拘束による弊害を理解し、寄り添いや見守りによるケアを心がけている。離園に関する問題に対しても職員間でその都度対応策を検討し支援している。	帰宅願望や一人で外出される入居者の対応については、今後も家族や職員など関係者との話し合いを重ね、その方の思いを大切にされた安全対策が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加した職員より、報告してもらい、理解・浸透を深め虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員とまでは行かないが、勉強会の機会を得ています。資料の提供をしてもらい、説明を行うよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、分かりやすい書面にて説明を行い十分な理解と納得を得た上での同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来訪された時は利用者様の情報交換や要望など話し合う機会を持ち又、認知症家族の会への参加をお願いし相談に応じ職員への啓発に努めています。	運営推進会議や家族会・家族の訪問時に意見・要望を聞き入れ出された問題に対しては早急に話し合い改善に繋げている。入居者の食事メニューの要望に対しては一緒に食材購入に出かける事で、より好みの料理の把握に努め献立作成に繋げた。	管理者は「入居者・家族と気持ちの通じ合うホームでありたい！」と語り今後も、プライバシーや尊厳・接遇など職員研修により共有し入居者・家族と些細なことでも語り合える関係に努めたいとしており今後の取り組みが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回／月の集会を行い、意見など気軽に述べられる機会を設けています。意見や提案は実践し、次回へ繋げています。	月一回のミーティングの他、随時の話し合いで意見交換を行っている。ケアに関しては担当者を中心に早急に話し合い対応している。入居者の楽しみ事についての話し合いでは、外出支援も兼ねた地域での買い物支援に繋げ、地元の商店での食材選びや会話を楽しむなど入居者の笑顔に繋がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があれば、その都度話し合い、改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は全員参加になっており、外部研修も参加希望者は確保できるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属し、活動内容の情報交換、勉強会への参加交流を通し、レベルの向上及びネットワーク作りに努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活を把握し、ご本人の意向を汲み取る様しています。また、日常生活の中で要望など気軽に話せる環境作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の話をよく聞き、思いを受け止め適切に対応することで信頼関係を築いていくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況等を確認して必要としているサービスが、提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等の手伝いを、積極的に行って下さる事も多く、共に行うことで、思いを共感し、共に支え合える関係作りに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報を共有し家族と同じ気持ちを持ち支援しています。また、行事ごとの参加の呼びかけを行い、より良い関係の維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にホームに尋ねて来て下さる方もおられます。また、馴染みの商店への買い物へ同行したり外出先での知人との再会ではゆっくり話のできるよう支援しています。	ホームは町の中心部に位置し訪れやすい環境にあり馴染みの人の訪問も多い。地元のスーパーで知人と出会った際は、時間を気にせずゆっくりと会話を楽しめるよう配慮している。家族の協力を得ての墓参や親類の集まりに参加する帰省など関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や好み、状態に合わせ職員が、間に入ったりしながら、コミュニケーションが図れる様、支援しています。入居者の方同士で、個人の居室を尋ねられたり、お世話してくださったりと、共同生活を楽しくて居られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも折にふれて、病院に、顔を見に行ったり、これまでのアルバムを整理し、手渡したりと家族の方との交流も続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話することで希望や意向を把握し自分らしい生活を過ごしていただいています。いつでも外出したい方の場合には、気分転換になるようドライブに誘ったり、生家に出かけたりと、ご本人の意向に沿った支援に努めています。	アセスメントにより一人ひとりの希望や生活環境を把握し意向に沿うよう努めている。又入居者に応じ、目線対応・ゆっくりと耳元でジェスチャーをつけてなど思いの把握に努めたり、家族の訪問時や電話で情報を把握し本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の様子や人生など日々の会話の中で聞くことが出来たり、家族の方から話を聞いて、入居者の方に合ったサービスができていのか話し合いながら支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の残存能力を生かせるよう、昨日出きられなかったことでも、諦めずその日によって、活動していただけるよう声かけして現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員のディスカッションは行っていますが、主治医・管理栄養士・家族の方からの意見やアイデアを反映したプラン作成を行っています。	本人や家族の希望を踏まえ、担当者によるアセスメントを基に職員全体で話し合い、主治医や管理栄養士の意見を取り入れた介護計画を作成している。半年毎や随時の見直しにより、その時のその方の現状に即したプランを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の方の変化や新たな気づきがあった場合は個人記録はもちろんの事、申し送りで話し合い情報を共有し、より良いケアの実践に繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じ、定期受診介助等行っています。法人からの協力を受け、往診も可能であり柔軟な支援の取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型インフルエンザの影響もあり、今年は慰問が少なかったですが、地域の子供会の交流ができたたり、文化展に作品を出品し賞をいただいたので次回に向けての作品作りに意欲を持たれるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設との連携を図り、定期受診時は職員が同行しています。又、往診も来て下さることもありより細やかな医療を受けてもらえるよう支援しています。	殆ど入居者が母体病院をかかりつけ医としており、月一回の定期受診や随時の往診をはじめ母体施設のPTによるアドバイスをケアに繋げ健康管理に努めている。他科受診については家族の対応となっているがホームでも柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が従事しており、相談しながら、日常の健康管理を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	殆どの入居者の方が母体施設への入院となるため、情報交換はスムーズに行えています。状態が良くなれば本人・家族の方の希望でもあり早期退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方殆どが母体施設を希望されています。状態の変化があるごとに本人・家族の方に思いを尋ねて支援しています。	契約時に母体病院との連携を説明し、殆どの家族が病院での対応を希望している。ホーム職員も家族として日々を過ごしており、その思いから今後も状態に応じた話し合いでホームでできる限りの支援に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルで学んではいますが、新人を含めての応急手当・初期対応の実践を検討しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力の下、通報非難訓練を行い、避難訓練・消化訓練も入居者と共に定期的に行っています。	年二回の夜間も想定した訓練を実施している。地域消防団の協力要請は行っているが、近隣住民の参加には至っていない。避難口の改善を現在検討中である。	ホームの環境から有事の際の近隣住民の協力は不可欠であると思われる。今後も災害対策担当者を中心とした訓練計画により地域の協力態勢に繋がっていくことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、常に言葉使いや対応に気を付け本人の思いや意向を把握できるようにしています。	入室時のノック・声かけの徹底や、方言の中にも慣れ合いにならない尊厳に配慮した言葉使いなど、個人情報も含め事例を通した勉強会を行い共有している。	食事中的のエプロンの使用についてはプライバシーや尊厳にも配慮した取り組みとなるよう検討いただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、表情やしぐさから本人の思いを感じとれるよう、コミュニケーションを図りながら自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の活動を優先とし生活のリズムを配慮しながらその方のペースに合ったケアを心がけ、好きなことができるように希望に沿った支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選んだ服装を着てもらっています。乾燥しないよう乳液やクリームをつけたりお出かけの時は化粧される方も居られます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に調理や後片付けなどして下さる方がおられ、協力して下さいます。教えていただくことも多く以前より手伝いされる方が増えたようで、楽しく作業ができています。	法人栄養士の作成した献立により調理された食事と、週二回入居者と一緒に希望や近隣・家族からの差し入れ食材を生かしたをメニュー作り・買い物から調理まで行い食事を楽しんでいる。訪問日も、片付けや台所で手際よく洗いのものをされる生き生きとした入居者の姿を確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を考慮しながら減塩したり、食材を刻み・ミキサーにかけたりするなどして提供しています。また水分量の少ない方にはゼリー状にして味を変えるなど個々に合わせた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っています。歯間ブラシ・薬用歯磨き粉等を使用し口腔予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して表情や行動からトイレ誘導を行っています。見守りは行い、できるところまでは自分でおこなってもらっています。	声かけや誘導などプライバシーに配慮し昼間はそれぞれの排泄パターンで、できるだけトイレでの排泄支援に努め自立に繋げている。夜間もトイレやポータブル使用など個々に応じた支援である。トイレの清潔保持や環境作り、ポータブルトイレの洗浄・日光消毒により気持ち良い排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認は行っています。個々に応じた飲食物はもちろん、食物繊維の多い野菜・果物を提供して、便秘予防対策に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴の声かけは行っており、時間も急がせることなくゆっくり楽しんで入浴していただいています。入らないと言われた方でも、時間を置いて、再度声かけすると入られる方もおられます。	毎日入浴の準備を行い、個々に合わせ週二回から三回の入浴を支援している。体調によっては清拭や足浴・拒否の方への対応の共有、一番風呂希望など一人ひとりに応じた取り組みである。ゆずや菖蒲湯・温泉入浴剤の使用は入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は掃除やレクリエーション等の活動を促しています。休息されたい方は自由に休んでいただいて、時間をみて声かけしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の説明書を見て、効能・副作用・用法・用量を理解し、服薬支援しています。異常のある場合は、主治医に相談指示を得ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方には、それぞれの役割分担がされており、食事の後片付け・洗濯の干し・たたみ・包丁とぎをしてくださる方がおられます。作業しながら、昔のことを話していただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に適した日はなるべく気分転換にもなるので出かけています。個々の希望のあるときは、その都度対応して希望を聞いています。突然出られる方にも、さりげない声かけで、行きたいところへ同行しています。一人で歩いておられる時は近所の方から連絡してもらったこともあります。	入居者は吉番館と式番館に囲まれた中庭を散歩したり畑作りを楽しんでいる。日常的な買い物や季節の花見(桜・水仙)の他、家族の協力で、外食や仏事・祝い事の外出・外泊支援も行われている。	インフルエンザの影響により、昨年からの外出の機会に少なからず影響したようである。これから気候もよく入居者の体調や希望に応じ外出の機会が増え、安全に支援されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はスタッフが行っていますが、買い物に行かれた方には、自分の手で支払っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度対応しており、手紙を書けなくなられた入居者の方の代わりに担当の職員が状況報告や写真など送っています。遠方の家族の方からは、大変喜ばれ、安心された様子のお便りが届きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いリビングでは、季節の花を見ることができ、対面式のキッチンは見渡すことができます。入居者の方の居場所の確認がすぐできます。温度調節も頻回に行い環境作りに努めています。	両ユニットから中庭を望めることができ心が和む。リビングは清潔に保たれ入居者の作品や季節の花・置物や壁面が温かな雰囲気である。すべての共用空間は清潔に保たれ、入居者の笑顔を引き出す工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士のお互いの部屋を訪ねられ、ベッドに座って話しをされたり、寝転んだりと寛いで居られることもあります。一緒にソファで洗濯物をたたんだりもされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの馴染みのあるものが揃えてあり、琴や三味線を大事にされている方も居られ、時々皆さんに披露して下さることもあります。	ベット・エアコン・チェスト・洗面台が備え付けられた居室は、入居者の使用していた趣味の品や写真などが持ち込まれそれぞれの家族の思いが窺える。職員も入居者のADLに応じた家具の移動や持ち込みの依頼など家族とともに居心地良い居室作りを支援している。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用されている方でも、見守り行き、出来るところまでは行ってもらっている。歩行が困難なときでも状態を把握して廊下の手すりを利用してもらい、無理のない歩行練習に努めています。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和やかに楽しく」は、いつでも確認のできる場所に掲げてあり新職員もすぐに覚えやすく理念の共有ができています。今回新たに、サブテーマを設け実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流もあって日々の挨拶をしてくださり利用者の方とも顔見知りになっており、1人で、出られている時などすぐに、教えていただいたりと協力してもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の「認知症家族の会」が1回/月開催されており職員が代表で1名参加し悩みや相談を受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議開催では現状報告や地域との交流・入居者の方のケアについて職員の研修や外部評価等を議題に上げ、数多くの意見交換がされ事業所の運営に反しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの勉強会など積極的に参加して質の向上に繋がっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていませんが、無断で外へ出られる方への言葉かけも拘束にならないように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加した職員より、報告してもらい、理解・浸透を深め虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員とまでは行かないが、勉強会の機会を得ています。資料の提供をもらい、説明を行うよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、分かりやすい書面にて説明を行い十分な理解と納得を得た上での同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来訪された時は利用者様の情報交換や要望など話し合う機会を持ち又、認知症家族の会への参加をお願いし相談に応じ職員への啓発に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月の集会を行い、意見など気軽に述べられる機会を設けています。意見や提案は実践し、次回へ繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の勉強会は全員参加になっており、外部研修も参加希望者は確保できるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域のGH連絡協議会に所属し、活動内容の情報交換、勉強会への参加交流を通し、レベルの向上及びネットワーク作りに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属し、活動内容の情報交換、勉強会への参加交流を通し、レベルの向上及びネットワーク作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には、一週間程の体験入居を利用していただき、ご本人の要望など取り入れて、その後の入居されてからも安心して生活できるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはホームを見学して頂いて、一日の流れ等を説明しています。その中で不安な点・要望などを聞いて関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思いなどその時点で何が必要かを見極め、できないことはカンファレンスでその都度話し合い、できる限りその思いを受け止め、改善に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	最近レベルの低下が著しく、日常生活での家事など、できられる事が少なくなりました。その中で少しでもできる事に気づいて頂き、お互いが支え合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の状況を家族へ連絡して情報を共有し、ご本人とご家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方は自由に面会に来て頂いてます。馴染みの美容室に出かけられたり、困難な場合は出張して頂いたり、関係が途切れないよう支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々関わることで、利用者の方が孤立されないよう努めています。気が合わない利用者の方々には、スタッフがさりげなく介入し、トラブルにつながらないよう雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族にお会いしても、挨拶だけにとどまらず最近のご様子など伺い、ご家族の方のお話し等があればお聞きしています。また、本人が入院されたときは、面会に出かけ会話等行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活暦や日々の関わり・会話の中から、本人の思いや意向を把握し、その方のペースで生活していただけるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりと会話しながらコミュニケーションをとり、これまでの生活の様子等を把握しています。また、受けたサービスがその方の望まれるケアなのか、検討しながら支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる中で健康状態やできる事に注目し、スタッフ間で共有しあい、一人ひとりの残存能力を活かせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、アセスメントも含め、スタッフ全員で話し合い、いいアイデアを活用し、その方にあった介護計画が作成できるよう努力しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録は行っているが、変化が見られたときは連絡帳にも記載し、出勤したスタッフがすぐに把握できるようにしている。また、問題点も個々に掲載し、全員でいいアイデアを出し合い、見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣にデイサービスが併設されていて、たまにはおじゃましたり、来訪されて和楽のスタッフと会話されたりと柔軟な支援を行っている。また、受診時の待ち時間等を考慮して往診も依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の園児と交流を図ったり、老人センターの文化展に作品を出品するなど、心豊かな暮らしを心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院と連携を図り、受診のときはスタッフが付き添い状況を報告したり、また、かかりつけの歯医者さん等には往診もお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が従事しており、相談しながら日常の健康管理を支援しています。問題点があれば、その都度カンファレンスをもち対処しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	殆どどの利用者が母体である病院に入院される為、本人の普段の状況など詳しく報告しています。又、入院中は再三訪問し見舞うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	殆どどの家族が母体の病院を希望されています。状態の変化があるごとに、本人や家族に思いを尋ね支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルの本でも学んでいます。職員全員が応急手当に関して訓練を行い、器具の取り扱いを実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力の下、利用者と共に消防訓練を行っています。避難訓練や消火器の使い方及び通報の仕方など定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊敬し、やさしく丁寧な言葉で声かけしています。また、まわりに気づかれないよう耳元で話しかけたりしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情を読み取り、表現しやすい雰囲気をつくりだしています。意思表示が困難な方には、複数の選択肢を提案し、本人に決めて頂く様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに配慮しながら、利用者本人のペースで行えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は自分で選んでいただいたり、化粧水やクリームをつけられたりと、おしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みの献立をたずねたり、調理の時は、簡単な皮むき等を一緒に行ったりしています。片付けも年齢を考慮し、座ってでもできる茶碗拭き等行われています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では管理栄養士との連携がとれている為、バランスの摂れた食事になっています。水分もトロメリンを使用したり、一人ひとりに合わせた形状にして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や力を引き出しながら、食後のうがいや口腔内の手入れの支援を行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、動きや表情を見て静かに声かけを行いトイレに誘導しています。失禁等がみられても、話題を変え自尊心を傷つけないよう更衣を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の管理を行っています。便秘の方には、食物繊維の多い野菜や果物等を多く活用し、牛乳を勧めたり、軽い運動を試みています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日声かけ行い、希望される場合に入浴していただいています。ほとんど一人ずつ入られているので、自分のペースで楽しんでいただいています。風呂がきれいな方にもタイミングをみて声かけし、早く入られています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、掃除やレクリエーション等で活動していただけるよう促しています。体調を把握し、日中でも休息を希望される時は、そのまま様子観察し、時間をみて声かけし起床を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される時は説明書が添付されていて、全職員が把握しています。服薬される時は、まちがいがいがないか再確認して手渡しています。変化がみられるときは、すぐに医師に連絡し指示を得ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な新聞の四つ折りや、できる方は、皮むき器で野菜の皮むき等行われています。野菜作りもされる方もおられ、収穫した野菜が食事の材料となることもあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くにお店もあり、歩いてよく買い物に出かけられています。また、洋服等取りに帰りたいと希望される時は、すぐに対応しています。天気の良い日には、近くの公園までドライブに行ったり、彼岸の時には、お寺参りに出かけたりと気分転換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのお店に買い物に出かけられ、欲しいものを購入される方もおられます。手持ちのお金が少なくなると、家族へ連絡され要求されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望されるときは、すぐに連絡できるよう心がけています。また、郵便物や贈り物が届くと、コードレス電話を使いいつでも自室で会話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、手作りのカレンダーや花を飾り、季節感に配慮しています。また、明るさや室温なども調整し、BGMも流したりして、いつでも居心地よく過ごせるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、利用者同士が会話を楽しまれたり、テレビ視聴されています。中庭にはベンチがあり、外気欲や草花を觀賞されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込まれ、居間はよくラジオを聞かれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりが設けてあり、自力歩行に役立っています。自室の表札も利用者の目線に合わせてあり、場所も絵や矢印を使って分かりやすいよう工夫しています。		